

2020 年度

地球温暖化対策計画書

1 指定地球温暖化対策事業者の概要

(1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の別	氏名（法人にあつては名称）
指定地球温暖化対策事業者	東京都
指定地球温暖化対策事業者	株式会社東京ビッグサイト

(2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称			東京国際展示場							
事業所の所在地			東京都江東区有明三丁目１１番１号							
業種等	事業の業種	分類番号	R95	R_サービス業...他に分類されないもの		その他のサービス業				
		産業分類名	その他のサービス業							
	事業所の種類	主たる用途	文化							
		建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)			前年度末	316,990.57	m ²	基準年度	316,990.57	m ²
		用途別内訳	事務所	前年度末	24,978.69	m ²	基準年度	24,978.69	m ²	
			情報通信	前年度末		m ²	基準年度		m ²	
			放送局	前年度末		m ²	基準年度		m ²	
			商業	前年度末	7,292.57	m ²	基準年度	7,292.57	m ²	
			宿泊	前年度末		m ²	基準年度		m ²	
			教育	前年度末		m ²	基準年度		m ²	
			医療	前年度末		m ²	基準年度		m ²	
			文化	前年度末	247,036.31	m ²	基準年度	247,036.31	m ²	
			物流	前年度末		m ²	基準年度		m ²	
			駐車場	前年度末	37,683.00	m ²	基準年度	37,683.00	m ²	
工場その他上記以外	前年度末		m ²	基準年度		m ²				
事業の概要										
敷地面積			265,751.63 m ²							

地球温暖化対策計画書

1 指定地球温暖化対策事業者の概要

(1-2) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

[illegible]

(3) 担当部署

計 画 の 担当部署	名 称	株式会社東京ビッグサイト 施設安全部施設管理課
	電 話 番 号 等	03-5530-1116
公 表 の 担当部署	名 称	株式会社東京ビッグサイト 施設安全部施設管理課
	電 話 番 号 等	03-5530-1116

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス：
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所： 株式会社東京ビッグサイト 事務室
		所在地： 東京都江東区有明三丁目11番1号
		閲覧可能時間 10:00～17:00（平日）
	冊 子	冊子名：
		入手方法：
	そ の 他	アドレス：

(5) 指定年度等

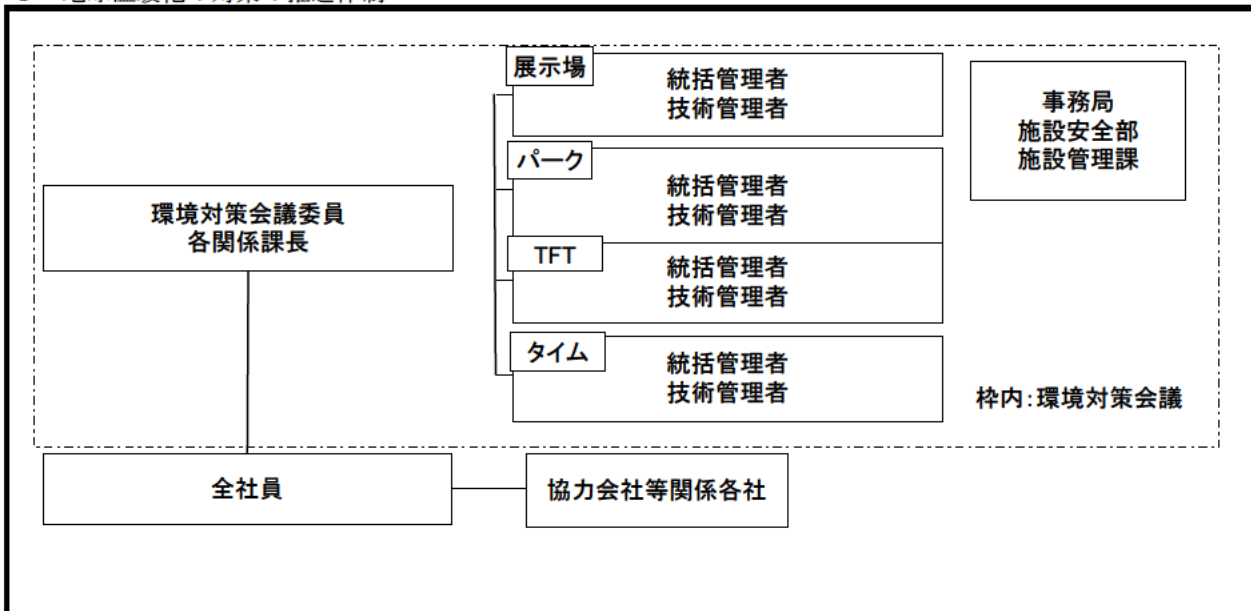
指定地球温暖化対策事業所	2009 年度	事業所の使用開始年月日	1995 年 10 月 1 日
特定地球温暖化対策事業所	2009 年度		

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

東京国際展示場は高度な省エネ技術を投入して建築された施設であり、その運用においても年々改良を重ね、環境に配慮した維持管理を行っているところである。今後は以下の3点を基本に環境対策をさらに進めていくこととした。

- 1 地球温暖化対策について省エネルギーにその主眼を置き、積極的に取り組んでいく。
- 2 従業員に対する環境意識啓発活動を行う。
- 3 講じた運用対策について、確実に実施されているかをチェックする体制を維持していく。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2020年度から2024年度まで					
削減目標	特定温室効果ガス	省エネルギー機器への更新や設備運用の最適化により、総量削減義務(25%見込み)以上の削減を目指す。				
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	現在の削減計画期間での削減量の維持を目標とする。				
削減義務の概要	基準排出量	33,906	t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I－2	
	排出上限量 (削減義務期間合計)	127,150	t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	25%	

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計 画 期 間		2025 年度から	2029 年度まで
削 減 目 標	特 定 温 室 効 果 ガ ス	省エネルギー機器への更新や設備運用の最適化により、総量削減義務以上の削減を目指す。	
	特 定 温 室 効 果 ガ ス 以 外 の 温 室 効 果 ガ ス	現在の削減計画期間での削減量の維持を目標とする。	

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特定温室効果ガス (エネルギー起源CO ₂)		21,012	20,570	21,265	20,707	18,364
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 二酸化炭素 (CO ₂)					
	メ タ ン (CH ₄)	16	10	4	2	1
	一 酸 化 二 窒 素 (N ₂ O)	3	1	1	0	0
	ハイト [※] ロフルオロカーボン (HFC)					
	ハ [※] ーフルオロカーボン (PFC)					
	六ふっ化いおう (SF ₆)					
	三ふっ化窒素 (NF ₃)					
上 水 ・ 下 水		107	111	123	122	124
合 計		21,137	20,693	21,393	20,831	18,489

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
延 べ 面 積 当 たり 特 定 温 室 効 果 ガ ス 年 度 排 出 量	66.3	64.9	67.1	65.3	57.9

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

過去の実績排出量の平均値	基準年度：（2005年度、2006年度、2007年度）
排出標準原単位を用いる方法	
その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
変更年度			○			○

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I－2
----------	-----

(4) 削減義務期間

2015 年度から 2019 年度まで

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量(A)	27,245	27,539	29,011	29,011	32,682	145,488
	削減義務率(B)	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	
	排出上限量(C=ΣA-D)						123,668
	削減義務量(D=Σ(A×B))						21,820
実績	特定温室効果ガス排出量(E)	21,012	20,570	21,265	20,707	18,364	101,918
	排出削減量(F=A－E)	6,233	6,969	7,746	8,304	14,318	43,570

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	削減対策	床面積の増減	用途変更
	設備の増減	その他	
具体的な増減要因	2019年度は、東展示棟及び東新展示棟をオリンピック・パラリンピック組織委員会に貸出し、展示ホール内空調及び照明利用率が低かったため、前年度に比べて基準排出量が軽減された。		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対 策 の 名 称	実 施 時 期	備 考
	区 分 番 号	区 分 名 称			
		【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】			
1	120300	12_運転管理及び効率管理	空調機ファンのインバーター化 (適正風量制御を行い消費電力削減)	2012年度	
2	120400	12_補機の運転管理	空調用ポンプのインバーター化 (適正流量制御を行い消費電力削減)	2012年度	
3	120400	12_補機の運転管理	駐車場換気ファンのインバーター化 (適正風量制御を行い消費電力削減)	2012年度	
4	120400	12_補機の運転管理	空調機CO2制御適用機器の拡大 (外気負荷の低減)	2012年度	
5	120500	12_熱搬送設備の運転管理	夏季のファンコイル系統への温水停止 (ミキシングロス防止)	2010年度	
6	130100	13_空気調和の管理	省エネ型Vベルトの導入 (消費電力削減)	2014年度	
7	130300	13_換気設備の運転管理	駐車場換気設備CO2制御での運転時間縮小 (消費電力低減)	2009年度	
8	150200	15_照明設備の運用管理	804・805会議室照明LED化	2009年度	
9	150200	15_照明設備の運用管理	誘導灯のLED化 (地下駐車場及び主催者事務室・商談室)	2009年度	
10	150200	15_照明設備の運用管理	照明の高効率化 (地下駐車場及び主催者事務室・商談室)	2009年度	
11	150200	15_照明設備の運用管理	照明の適正化-低出力に変更- (西展示棟1～4ホール)	2008年度	
12	150200	15_照明設備の運用管理	照明の高効率化 (アトリウム入口)	2008年度	
13	160100	16_昇降機の運転管理	エスカレーターへの人感センサ導入	2011年度	
14	160200	16_建物の省エネルギー	大型映像装置・表示装置LED化	2008年度	
15	120400	12_補機の運転管理	夏季の温水一次ポンプ全停止運用	2011年度	
16	130300	13_換気設備の運転管理	東展示棟地下駐車場給排気ファン運転時間短縮	2015年度	
17	130100	13_空気調和の管理	夏期・冬期展示ホール予冷・予熱運転方法見直し	2015年度	
18	160200	16_建物の省エネルギー	西2ホール高天井照明LED化	2017年度	
19	150200	15_照明設備の運用管理	北コンコース、連絡ブリッジ、南コンコース 照明点灯時間変更	2017年度	
20	160200	16_建物の省エネルギー	西1、3、4ホール、エントランス、ガレリア 高天井照明LED化	2018年度	
21	160200	16_建物の省エネルギー	南展示棟新設に伴う空調設備インバーター導入	2019年度	
22	160200	16_建物の省エネルギー	南展示棟新設に伴うLED照明導入	2019年度	
23					
24					
25					
		(再生可能エネルギーの設備導入及び利用の状況)			
71					
72					
73					
		【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】			
81					
82					
83					
		【排出量取引の計画及び実施の状況】			
91					
92					
93					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

東京国際展示場は高度な省エネ技術を投入して建築された施設であり、その運用においても年々改良を重ね、環境に配慮した維持管理を行っているところである。

地球温暖化対策は、企業の社会的責任の一つとして率先して取り組むべき重要な課題であると考え、今後は以下の3点を基本に環境対策をさらに進めていくこととした。

1 省エネの取組を推進する。

省エネ設備導入としては、ダウンライトのLED化・ガラス屋根の反射塗装・空調機ファンのインバーター化・空調用ポンプのインバーター化・駐車場換気ファンのインバータ化を施工した。

また、高天井照明のLED化を施工している。

省エネ運用としては、温水一次ポンプの夏季運転停止・主変圧器の適正運用・給湯循環ポンプの夜間停止を実施中。

2 従業員に対する環境意識啓発活動を行う。

環境対策会議を実施し、部署ごとの省エネ対策について検討を行った。

また、同会議でエネルギー使用量や、月間のCO2排出量のデータを発表することなどのより従業員の環境意識啓発を行った。

3 講じた運用対策について、確実に実施されているかをチェックする体制を維持していく。

実施済みの運用対策について確実に実施されているかを日報等で確認を行った。

運用対策は下記の通り（抜粋）

- ・空調温度の適正化
- ・駐車場換気設備のCO2制御
- ・ソーラーパネル設置による温水の利用
- ・雨水の再利用
- ・生ゴミのリサイクル
- ・クールビズの実施